



2017

7

vol.499



『今金男しゃく』
すくすく成長中！

いまかね TOPICS

今金町軟白長ネギ振興会 新物初出荷＆目揃え会を開催！！



また、同19日には目揃え会を開催しました。これは選別の基準などをあらためて確認するために毎年行われているもので、当日は道内の主な出荷先である、丸果札幌（株）、東一函館（株）、（株）キヨクイチの3市場からも販売担当者を招き、消費者に選ばれる商品の出荷に向けて意見交換が行われました。

6月7日、今金町を代表する作物のひとつである「今金軟白ながねぎ」の新物出荷が始まりました。それに伴い、今金町軟白長ネギ振興会の役員は丸果札幌株式会社を表敬訪問し初セリを見守りました。

また、同19日には目揃え会を開催しました。

これは選別の基準などをあらためて確認するために毎年行われているもので、

当日は道内の主な出荷先である、丸果札幌（株）、東一函館（株）、（株）キヨクイチの3市場からも販

ミニトマト振興会 現地研修会を開催



今金町ミニトマト振興会は6月23日、現地研修会を行いました。研修会には43名の生産者が参加し、新品種の生育状況や栽培上のポイントを育種した朝日工業株式会社より技術員を招いて指導してもらつたほか、普及センター千田専門主任より慣行品種の今後の栽培上の注意点などについても指導していただきました。

種子馬鈴薯防疫補助員に委嘱状が授与されました



6月8日、JA今金町において平成29年度種子馬鈴薯防疫補助員の委嘱状授与式が行われました。補助員は生産者から上田富男さん、油家正人さん、津村好見さん、今年から補助員となつた日置勇馬さんの4名が農林水産省横浜防疫所長より委嘱されました。全筆合格を目指し、健全な種いも生産のために補助員の皆さんにご指導頂きます。

種子馬鈴薯 第一期防疫検査が行われました



6月27日、町内で生産されている種子馬鈴薯の「第一期防疫検査」が行われました。当時は町、普及センター、防疫補助員の方々にご協力いただき、檜山振興局の植物防疫員により原種2筆、採種13筆の計15筆の圃場検査が行われ、ウイルス株0、アブラムシ0で全筆合格しました。

今後も生産者・関係機関が一丸となり、高品質な種子馬鈴薯の生産に取り組んでいきます。

J A今金チームが奮闘！



6月24日、森町の町民野球場において、「第57回道南地区JA野球大会」が行われました。当JAのほか、JA新はこだてからAとBの2チーム、ホクレン函館支所チームの計4チームで優勝が争われました。勝に進出した今金チームですが、新はこだてAチームに5-1で惜敗しました。優勝した新はこだてAチームは全道大会に進出します。



日本一の「今金男しゃく」を守りましょう！

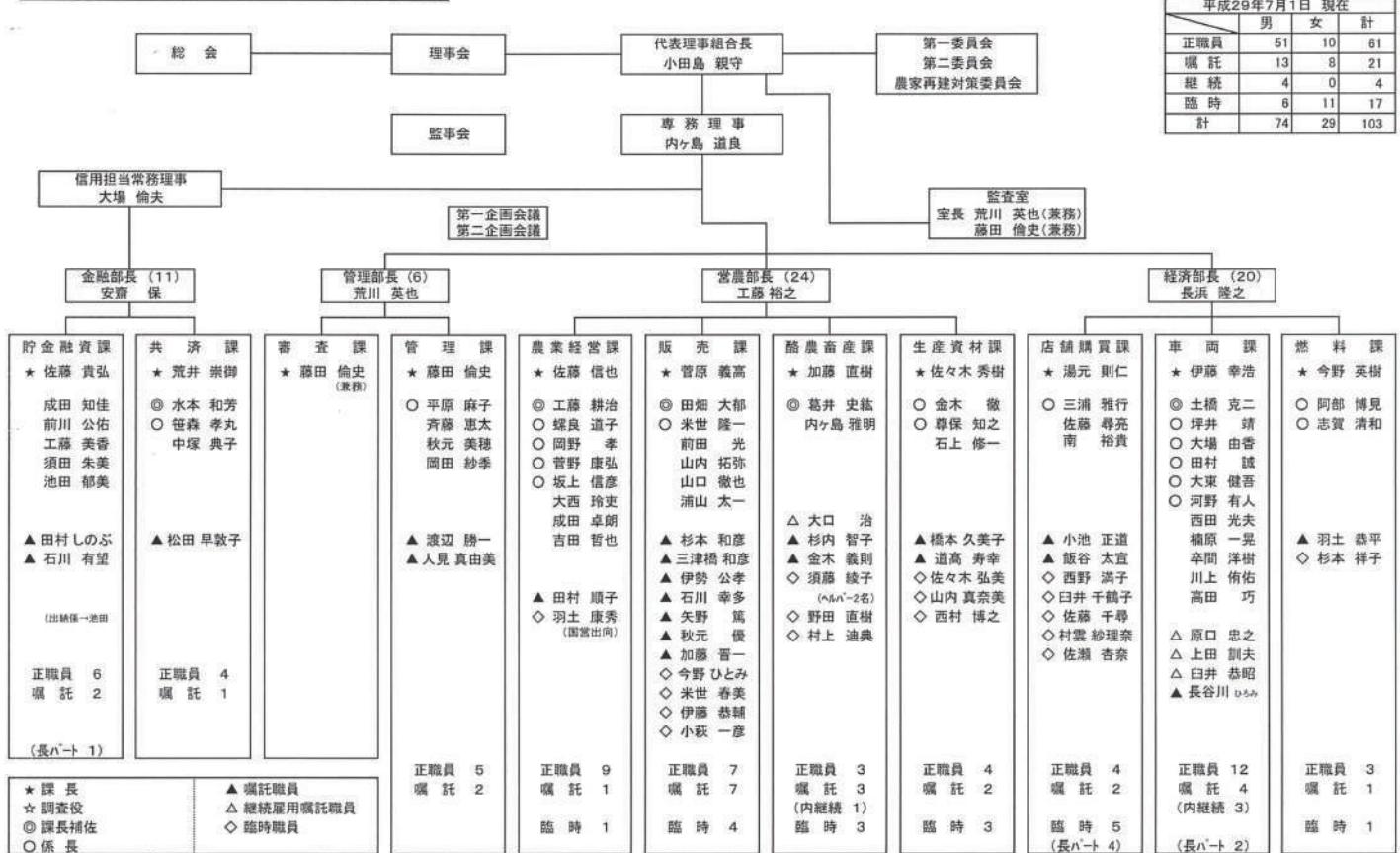
～ジャガイモストセンチュウの侵入・拡散防止の為、以下の対策を徹底してください～

・圃場間移動時の車両・農機具等の洗浄の徹底

・集出荷施設への出入りの際の車両洗浄の徹底

1人1人の意識向上、対策の徹底が侵入・拡散防止の最良の手段です。

JA今金町 機構図及び部門別職員配置表



平成29年度 部会・振興会等役員組織図

部会・振興会名	事務局	会長	副会長	副会長	副会長	会計	監事	監事
今金町稲作部会	山口徹也	吉本辰也	下田屋直樹	平原大輔		伊藤元正	本塚直行	樋口洋一
今金町水稲直播研究会	坂上信彦	石川大輔	上野慎悟			沢口忠大	讃岐幹夫	吉本辰也
今金町畑作部会	岡野孝	川崎敏彦	須藤孝政	西政明	内ヶ島寛良	伊藤勇矢	長崎誠一	鷺野幸代
今金町種子馬鈴薯委員会	菅野康弘	伊藤悟志	村瀬一人			森川修	長崎誠一	杉林範久
今金町早出馬鈴薯振興会	岡野孝		伊藤祐樹	笹森芳弘		芳賀健太	成田正春	広田建一
今金町麦作振興会	山口徹也	宮本翼	土橋龍二			竹内章郎	黒沢正雄	植村繁嗣
檜山北部広域大根部会	成田卓朗	中山一浩	内ヶ島寛良	(北檜山) 大脇弘行		須藤孝政	鎌田孝俊	村上民夫
檜山北部広域人参部会	成田卓朗	天井秀光	大谷和明			上村朋慶	村上隆文	(若松)馬場丈宣
檜山北部広域小かぶ部会	菅野康弘	村瀬好亮	(若松) 大堀賢二			芳賀健太	(北檜山) 大原正臣	
檜山北部広域プロッコリー部会	菅野康弘	(若松) 馬場丈宣	(北檜山) 大脇弘行	(今金) 伊藤勇矢		(若松) 加藤一博	(今金) 仁木儀一	(北檜山) 多田容将
檜山北部広域ほうれん草部会	螺良道子	(北檜山) 長井克宣	(若松) 中村正明	(北檜山) 小林光明			(北檜山) 大原正臣	(若松) 近藤弘子
今金町プロッコリー生産組合	菅野康弘	西政明	広田建一			安藤拓也	水野利孝	水野哲
今金町軟白長ネギ振興会	坂上信彦	松永敏和	牧野司			向井宗征	飯谷勉	(北檜山) 惣藏幸男
今金町ミニトマト振興会	工藤耕治	川上等	谷崎敏之	沢口忠大		藤倉雅人	南川栄一	伊藤司
今金町椎茸振興会	吉田哲也	上村忠	三津橋信武					ワークショップ今金
今金町アスパラ生産組合	坂上信彦	日置勇馬	小池弦徒	びりかブーム (末藤春義)		仁木宏直	岸徹也	上村朋慶
今金町農協女性部	螺良道子	鈴木幸子	笹森博子	津村明美	仁木由喜江	村瀬加代子	谷崎麗子	村本敏子
今金町農協青年部	吉田哲也	苅屋泰裕	湯元宏	宮本翼	仁木宏直	岡林拓馬	佐藤瑛治	坂本好史
今金町酪農部会	内ヶ島雅明	幅口博隆	湯元宏	山崎良介		本塚晴看		
今金町和牛生産改良組合	葛井史紘	佐藤弘一	上村和宏	村上寛明		苅屋泰裕	諸戸邦吉	木島隆浩
今金町無人ヘリコプター協同利用組合	岡野孝	伊藤悟志	岡林国光	吉本辰也		南川栄一	境田哲也	夕下富男

理事会会報

◆ 第6回理事会（平成29年5月18日）

- ◆ 報告事項
 - 1. 農業委員会総会報告について
 - 2. 第一委員会の報告について
 - 3. 第1四半期監査の実施について
 - 4. 内部審査結果報告について
 - 5. 内部監査実施要領に基づく年間活動報告について
 - 6. 組合員の加入・脱退状況について
 - 7. 第1四半期部門別実績対比について
 - 8. 平成28年度中山間地域直接支払交付金等の実績について
 - 9. 平成29年度種馬鈴しょ防疫補助員候補名簿の変更について
 - 10. 預託牛の入牧について
 - 11. 広域連通常総会の報告について
 - 12. 平成28年度JAバンク基本方針に基づくJA財務モニタリング報告について
 - 13. 負債の整理状況について
 - 14. 定期積金の集金業務の廃止について
 - 15. 今金町への支援要請書提出について

◆ 第7回理事会（平成29年6月23日）

- ◆ 報告事項
 - 1. 農業委員会総会報告について
 - 2. 第二委員会報告について
 - 3. 上半期棚卸監査の実施について
 - 4. 種子馬鈴薯防疫検査日程について
 - 5. 農畜産物の販売状況及び生育状況について
 - 6. 今金町畜産共進会について
 - 7. コンプライアンスマニュアルについて
 - 8. 今金町夏祭りの実施について

◆ 協議事項

1. JA今金町夏祭りの実施について
2. JA今金町夏祭りの実施について
3. JA今金町夏祭りの実施について
4. JA今金町夏祭りの実施について
5. JA今金町夏祭りの実施について
6. JA今金町夏祭りの実施について
7. JA今金町夏祭りの実施について
8. JA今金町夏祭りの実施について
9. JA今金町夏祭りの実施について
10. JA今金町夏祭りの実施について
11. JA今金町夏祭りの実施について
12. JA今金町夏祭りの実施について
13. JA今金町夏祭りの実施について
14. JA今金町夏祭りの実施について
15. JA今金町夏祭りの実施について

〈お詫びと訂正〉

6月号にて一部誤りがありました。ここにお詫びして訂正させていただきます。

◆ P 2 人事異動のお知らせ

退職しました佐薙 孝弘（営農部農業経営課）の辞令交付日につきまして
 (誤) [6月2日付け] ⇒ (正) [6月30日付け]

◆ P 5 営農情報6月号

(誤)

今後の農作物管理	
馬鈴薯	<ul style="list-style-type: none"> 除草剤の適正使用 パワーガイザー液剤を使用する場合は、散布時期や飛散に十分注意して下さい。 茎疫病に注意 排水不良のほ場や多雨などではほ場が滞水すると多発します。気象情報を留意し、過去に発生したほ場では発病前(6月下旬～)に予防除を行いましょう。

(正)

今後の農作物管理	
馬鈴薯	<ul style="list-style-type: none"> 疫病防除について 疫病は、初発時の防除が重要です。 ほ場の確認と「FLABS」による危険日到達予測を参考にし、適期防除に努めましょう。 ジャガイモヒゲナガアブラムシ飛来予測 4月1日からの積算気温で飛来時期を予測することができます。平年は5月末となっています。発生状況を十分に観察し、効果的な防除を実施しましょう。

檜山農業改良普及センター檜山北部支所より

営農情報 7月号

今後の農作物管理		今後の農作物管理	
水 稲	<p>水稻（6/15現在：遅3日）</p> <p>◎7月は冷害危険期、穂孕み期、出穗期へと生育ステージが大きく変わります。極めて低温に弱い時期ですので適切な水管理で稻穂をしっかりと守り抜くことが肝要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷害危険期の深水灌漑徹底・・・幼穂形成期から約10日後から冷害危険期が始まり、一週間かけて水深を10から最大20cmまで高めます。一斉に入水すると水が足りなくなる状況が想定されますので、前歴期間から計画的な入水・水深保持に努め、平均水温20℃以上を目標に（25℃が△）日中止水を徹底しましょう。 ・危険期終了後から出穂までの水管理・・・止葉が展開し、葉耳間長+5cmの茎が8割に達したら危険期終了です。速やかに中干しを行う。出穂が始またら極浅水とし、花・受精を促しましょう。・・・開花終了まで ・発生予察の励行で的確な病害虫防除を！ ・いちばん病・・・「BLASTAM情報」に留意し、早期発見と防除に努めましょう。特に葉色が濃く風通しの悪いほ場などに注意。 ・カメムシ類・・・水稻の出穂とともに小麦・えん麦ほ場や雑草地から水田に移動。すくい取りでカメムシを確認し、出穂期以降の防除に備えましょう。乳熟期が最重点。・・・効果が高く残効性の長い薬剤（キップ、スークリ等）の場合は出穂期防除を省略し出穂後7～10日の1回防除で対応可能。（H27指導参考） 	豆類	<p>豆類（大豆（平年並））（小豆（は種作業遅7日））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終中耕は開花前までに終わらせましょう。開花期に中耕・除草を行うと、根の切断により水分の一時的な欠乏を生じ、落花・落葉の原因となります。 ・排水不良地は茎疫病が発生していないか注意して観察しましょう。過去に発生したほ場は特に要注意です。しっかりと観察して蔓延を防ぎましょう。 ・アブラムシに注意！高密度で吸汁加害されたものは、生育抑制の原因になります。播種時に種子塗沫剤を施していないほ場（種子塗沫していると抑制できる）はよく観察し、防除に努めましょう。
小 麦	<p>秋まき小麦（早6日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開花も終わり、子実の充実時期に入っています。 ・7月上旬に穂水分調査を実施し、成熟期を判定する予定です。収穫時期については今後、JA今金町からのFAX情報を参考にしてください。 ・注意深くほ場を観察し、適期刈り取りに努めて良質麦を目指しましょう。 	ブロッコリー	<p>・花蕾腐敗病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春まきよりも株間を広くし、栽植密度を下げます。 ・基肥を控え、追肥も基準量（硫安20kg/10a）を守りましょう。 ・花蕾が見え始めてから2週間以内で収穫となるため、薬剤の使用時期を確認し生育状況に合わせた薬剤を選択しましょう。
馬 鈴 薯	<p>馬鈴しょ（露地（早5日））（早出し（早4日））共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疫病は20℃前後の多湿条件で発生します。発生前の予防防除が効果的です。もし、疫病の発生が見られた場合は、ほ場の蔓延を防ぐためにも雨前に防除を行いましょう。 ・晴天で気温も高く推移した場合、アブラムシの発生も予想されます。発生を確認した場合は、早めに防除を行いましょう。 ・軟腐病は倒伏や損傷により被害が多発するので、注意して防除を行いましょう。 ・馬鈴しょ（早出し） ・あと1か月ほどで収穫時期を迎えます。 ・早出馬鈴薯振興会の坪掘り調査結果をもとに収穫の計画を立てましょう。 ・ほ場に野良生えいもを残していませんか？ ・野良生えいもの目立つほ場がみられます。野良生えいもは雑草化したり、病気の発生源にもなります。 ・種子馬鈴しょを作付けしている・していないに関わらず、徹底的に野良生えいもを除去しましょう。 	ミニトマト	<p>・脇芽の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きくなりすぎてからの整理は茎を傷めたり、大きな傷口を作ることになるので、10～15cm程度までの小さいうちに行いましょう。 ・温度、肥培管理 ・日中27℃、夕方～夜15℃、夜～朝方12℃程度とし、昼夜の寒暖差を付けて管理します。 ・3段果房開花～着果期は、最も負担のかかる時期です。草勢を見ながら遅れずに追肥を行いましょう。 ・病害虫防除 ・着果後の花弁や枯れて黄変した下位葉には、灰色かび病が付きやすくなります。枯れた部位や整理したわき芽などは放置せずにハウス外に持ち出すようにし、こまめな換気と防除を行いましょう。 ・アザミウマ類やオオタバコガ幼虫の発生時期です。果実を食害しますので、ほ場観察に努め、適正に防除しましょう。
てんさい	<p>てんさい（早3日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨトウガ（ヨトウムシ）の発生に注意！ ・幼虫の若齢期に防除効果が高いので、ほ場をよく観察し、食害の程度を確認し防除の必要性を検討しましょう。 ・要防除水準：被害株率50%以上で即時防除 ・褐斑病に気をつけましょう。本病は高温・多湿条件にて発生が広がります。ほ場をよく観察して防除しましょう。 	大根・小かぶ	<p>・軟腐病対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温・多湿条件で、軟腐病の発生が助長されますので予防散布を心がけましょう。 ・バイオキーパー等の微生物農薬は、多湿条件で散布すると微生物の定着が促進され、効果を発揮しやすくなりますので、だいこんでは降雨後、こかぶではかん水後に散布するようにしましょう。
	<p>檜山農業改良普及センター 檜山北部支所</p> <p>TEL 0137-84-5514</p> <p>FAX 0137-84-5596</p> <p>E-mail hoho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp</p>	畜産	<p>生育（牧草 早3日、飼料用とうもろこし 0日）</p> <p>・夏場の飼養管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳牛・肉用牛への送風や水槽の増設、清潔な飼槽などの対策を実施して暑熱ストレスを緩和し、生乳生産、繁殖、増体への影響を防ぎましょう。 ・牛舎内温度の上昇を抑えるため、①日よけ、すだれ等で直射日光を遮る、②牛舎の窓は取り外し、開口部面積を広げる、③トンネル換気やリレー式換気で畜舎内の換気量を増加させる、④大型扇風機やダクトファンで体感温度の低下を図りましょう。 ・乳質管理 ・気温と湿度の上昇で、畜舎内は細菌が増殖しやすい状態になります。牛床に十分な敷料を入れるなど管理を徹底し、乳房を清潔に保ちましょう。 ・生乳中の細菌数が増加しやすい時期となります。搾乳機器の洗浄及び殺菌は、定められた洗剤・殺菌剤の濃度と水温を厳守しましょう。また、洗剤や殺菌剤は直射日光を避け適切な場所に保管する。生乳中の細菌数を旬毎に確認し、異常を発見したらミルカーシステムの洗浄・殺菌工程に問題がないかチェックしましょう。 ・飼料の確保 ・一番草のロール数、サイロの詰め込み状況などにより収穫量を確認し、不足が見込まれる場合は、草種に合わせた追肥を行い、二番草および三番草の収穫量を確保しましょう。



J A グループ通信

J A グループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A 北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

J A 北海道中央会

日EU・EPA交渉が大枠合意に至る可能性が高まっていることから、6月14日「日EU・EPA交渉から北海道農業を守り抜く要請運動」を実施し、日EU等経済協定対策本部（自民党）の幹部役員、道内選出与野党国會議員及び農林水産省に要請を行いました。乳製品、豚肉、小麦粉調製品、馬鈴しょ、でん粉等が大きな焦点になると想定されますが、十分な情報提供がないまま大枠合意に向うこと大きな不安が広がっています。引き続き、政府・与野党に対して衆参農林水産委員会決議（H28・12）に基づき、農林水産物重要品目の再生産を可能とする国境措置の確保や交渉内容・進捗状況について丁寧な情報提供を求める運動を開いていきます。



J A 北海道信連

5月に、JA窓口職員のスキルを向上し、JA窓口をご利用いただく皆様のニーズに応えていく事を目的に「JAバンク北海道窓口セールスコンクール」を開催しました。当時は、各地区の予選等を突破した16名が「年金指定替部門」、「新規推進部門」の2部門で接客や提案力を競いました。JAバンク北海道では、コンクールを通じて、より一層のお客様の満足度向上を目指して参ります。



ホクレン

ホクレンは、酪農生産基盤強化対策の一環として、北海道特有の冬場の子牛事故率低減環境向上へ向けて「冬期仔牛飼養環境向上支援事業」を実施しておりますが、平成29年度から和牛繁殖農家の皆様に対する事業「冬期子牛飼養環境向上支援事業（和牛版）」を始めました。具体的には、出生直後の子牛を暖める機械装置や支援監視モニター等の導入助成を行います。



J A 北海道厚生連

北海道厚生連では、イメージキャラクター「コウセイくん」を制作しました。医療をイメージした白に北海道の緑を取り入れた、のんびり優しい性格のシロクマくんです。今後、様々な場面で登場しますので、癒されるキャラクターとして親しんでいただきたいです。



J A 共済連北海道

社会貢献活動の一環として、昭和50年から継続して道内各自治体へ救急自動車を寄贈しています。道庁総務部の危機対策課へ寄贈先の選定審議依頼しており、今年度は4台を寄贈予定。今年度の寄贈が完了すると累積寄贈台数は記念すべき200台を超えることになります。



農作業時の熱中症予防チェックシート



熱中症が原因でめまいなどを起こし、
トラクター転倒などの重大事故につながることもあります！
下記の項目をチェックして、熱中症に注意しましょう！

天気や気温を確認しましたか？

出かける前にかならず天気予報を確認しましょう。急に暑くなる日は
熱中症の危険が高くなります。梅雨明け直後は要注意です。
風が弱い日や、湿度が高い日は熱中症にかかりやすくなります。

体調は万全ですか？

体調不良（二日酔い・寝不足・風邪気味）の時は熱中症の危険度が増します。

朝ごはんは食べましたか？

朝食で取るべき栄養分と水分をきちんと取りましょう。

涼しい服装を選んでいますか？

服装は、日差しを遮り、汗を逃がしやすいものを着ましょう。
吸汗・速乾性に優れた素材の服がオススメです。

日差しを遮る帽子はありますか？

つばの広い帽子をかぶり、直射日光を遮りましょう。

飲み物は持ちましたか？

水分補給をこまめにとりましょう。
特に高齢者は水分不足や暑さを感じにくくなっているため、喉が渴く前に
積極的に給水しましょう。大量に汗をかく場合は、塩分も補いましょう。

二人以上での作業ですか？

一人で作業中に熱中症になると、助けてくれる人がおらず重症化する
おそれがあります。できる限り二人以上で作業をし、体調不良時は
我慢せず不調を伝えましょう。

作業場所は熱がこもりませんか？

ハウスや畜舎など気温が上昇しやすい施設内の作業は、風通しをよくしましょう。
室内の換気をして、熱がこもらないようにしましょう。

作業計画に無理はありませんか？

涼しい時間帯に作業をしましょう。もし暑い時間帯に作業するときは、
休憩をこまめに、作業時間を短くなどの工夫を。

緊急連絡先を知っていますか？

いざというときのため、緊急連絡先を持ち歩きましょう。
具合が悪くなったら無理せず、医療機関にかかりましょう。

農林水産省 生産局 技術普及課 03-3502-8111(内線:4774)